

文京区地域福祉活動計画

令和6年度～令和9年度

中間まとめ
(案)

【中間まとめ(案)をご確認いただくにあたっての留意事項】

- 文中の表やグラフは、既存の報告書等から引用しているものが含まれているため、形式や色彩が統一されていない場合があります。
- 全体的なデザイン(表、グラフ、段落の配置、フォント、写真、イラストなど)は今後統一する予定です。
- 本文中のわかりにくい言葉については、今後、用語集を作成して解説を記載する予定です。
- 数値は四捨五入しているため、構成比等の合計が 100 にならない場合があります。

目次

第1章 計画の策定にあたって	P 1
1 計画策定の背景と目的	P 2
2 計画の位置づけ	P 4
3 計画期間	P 5
4 策定体制	P 6
5 数字でみる文京区	P 7
第2章 策定に向けた方向性	P 9
1 前計画(令和2年度～令和5年度)の成果と課題	P 11
2 策定委員会・作業部会における検討	P 18
3 本活動計画の策定に向けた方向性について	P 25
第3章 文京区地域福祉活動計画がめざすもの	P 27
1 計画の基本理念と基本目標	P 29
2 基本目標の関係性	P 31
3 計画の体系	P 32
4 基本目標の主な取組	P 34

第1章

Chapter

計画の策定にあたって



1 計画策定の背景と目的

地域福祉を取り巻く動向

かつて我が国では、生活の様々な場面で地縁や血縁の支えあい機能が存在し、人々の暮らしを支えていました。しかし、人々の価値観やライフスタイルが多様化したことや、本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎え、世帯規模の縮小・単身世帯の増加が顕著になり、家族や地域における支えあいの基盤が弱まってきています。支えあいの基盤が弱まったことで、サービスや制度があるにも関わらず、個人や世帯単位で複数の課題を抱え、複合的な支援を必要とするケース（8050 問題、ひきこもり、ヤングケアラーなど）や、従来の対象者別の支援制度には合致しにくい、いわゆる「制度の狭間」にあるニーズが浮き彫りとなっています。

こうしたなか、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人のつながりの希薄化がさらに進み、潜在的に広がっていた格差が顕在化し、とりわけ社会的弱者と言われている人々を苦しい立場に追い込み、日々の暮らしにも甚大な影響をもたらしました。

このような背景から、これまでの「つながり・支えあい」の概念を広げた、新たな「つながり・支えあい」の在り方が求められています。民間・公共を問わず、地域の様々な構成員が制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えてつながり、多様な新しい接点をとおして、人と人が交差し、時に特性や得意分野を活かして支え、時に支えられることで、その人らしい生活を送ることができるような社会としていくことが求められています。

国では、このような社会変化に伴い、地域福祉の視点を取り入れた社会保障制度の改正を進めています。高齢者分野では、平成 27 年度に住民参加型も含めた多様な活動で課題解決を行う介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、同年、生活困窮者の抱える複雑化・多様化した課題に対して、生活困窮者自立支援事業により、従来の縦割りではない横断的な支援が制度化され、地域福祉の政策化が進んでいます。そして、「一億総活躍プラン」のなかで提起された「地域共生社会」の実現の具体化のために、令和3年度、重層的支援体制整備事業が始まりました。

PICK UP

1 地域共生社会とは？

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。

2 重層的支援体制整備事業とは？

この事業は、地域住民が抱える複雑化・複合化した課題や「制度の狭間」にあるニーズに対応するために市区町村の任意事業として創設されました。

「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を柱として、それらを効果的かつ円滑に実施するため、「他機関協働による支援」「アウトリーチ等を通じた継続的支援」を新たな機能として強化しています。これにより包括的相談支援事業、参加支援事業、地域づくり事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業、多機関協働事業の5つの事業を一体的に実施することができます。

文京区では、令和7年度からの本格実施に向けて準備を進めています。

計画策定の目的

地域共生社会においては、地域住民や福祉関係者は、様々な地域生活課題を把握し、できる範囲での解決を図るとともに、必要に応じて支援を行う専門機関や行政機関などと連携して課題の解決に取り組むことが大切だとされています。

そのため、区市町村は、地域住民や地域関係団体などが地域福祉の様々な活動に積極的に参加できるように支援する人材を配置すること、地域住民などが交流を図るための拠点を整備すること、地域住民等に対して地域福祉に関心を持ってもらえる機会をつくることが重要であるとされています。

このことに関して、東京都は「地域福祉支援計画」を、文京区は「地域福祉保健計画」を策定していますが、このような公的な地域福祉に関する計画の策定とその推進とともに、地域住民自身が中心となって、主体的に地域共生社会の実現に向けて活動ができるようにするための計画も一層重要になっています。

本計画では、こうした政策的な背景とともに、地域共生社会の実現に向け、地域住民や地域福祉関係者・関係団体などとともに、どのような地域づくりを行っていくのかを示しました。

計画策定にあたっては、「文京区地域福祉活動計画(令和2年度～令和5年度)」の成果と課題を踏まえ、新たな時代に対応できる計画に改定を行いました。

PICK UP

1 地域生活課題とは？

福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える福祉、介護、介護予防、保健医療、住まい、就労及び教育に関する課題、福祉サービスを必要とする地域住民の地域社会からの孤立その他の福祉サービスを必要とする地域住民が日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるうえでの各般の課題です。(社会福祉法第4条第3項より抜粋)

2 地域福祉活動計画とは？

地域福祉活動計画は、誰もが安心して暮らしていけるような地域社会を目指して、地域住民や地域福祉関係者・関係団体など、その地域に住む「まち」の課題を自分たちのものとして捉え、それらの地域課題を解決するための地域づくりに主体的に関わっていくための具体的な行動計画です。

3 文京区社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会は、社会福祉法に基づき「地域福祉の推進」を目的に、全国・都道府県・区市町村のそれぞれに組織されている非営利の民間団体です。

文京区社会福祉協議会(=文社協)は、昭和27年(1952年)に設立され、昭和38年(1963年)に社会福祉法人の認可を受けました。

文社協は、地域福祉活動計画の基本理念である「知り合い、伝え・伝わり、心を寛(ひろ)げ、つながりを持つことで、『お互いさま』が生まれるまち」の実現に向けて、様々な事業を通じて、地域の皆さんをはじめ、民生委員・児童委員、行政、地域福祉関係者・関係団体等と一緒に地域福祉の向上と充実に取り組んでいます。

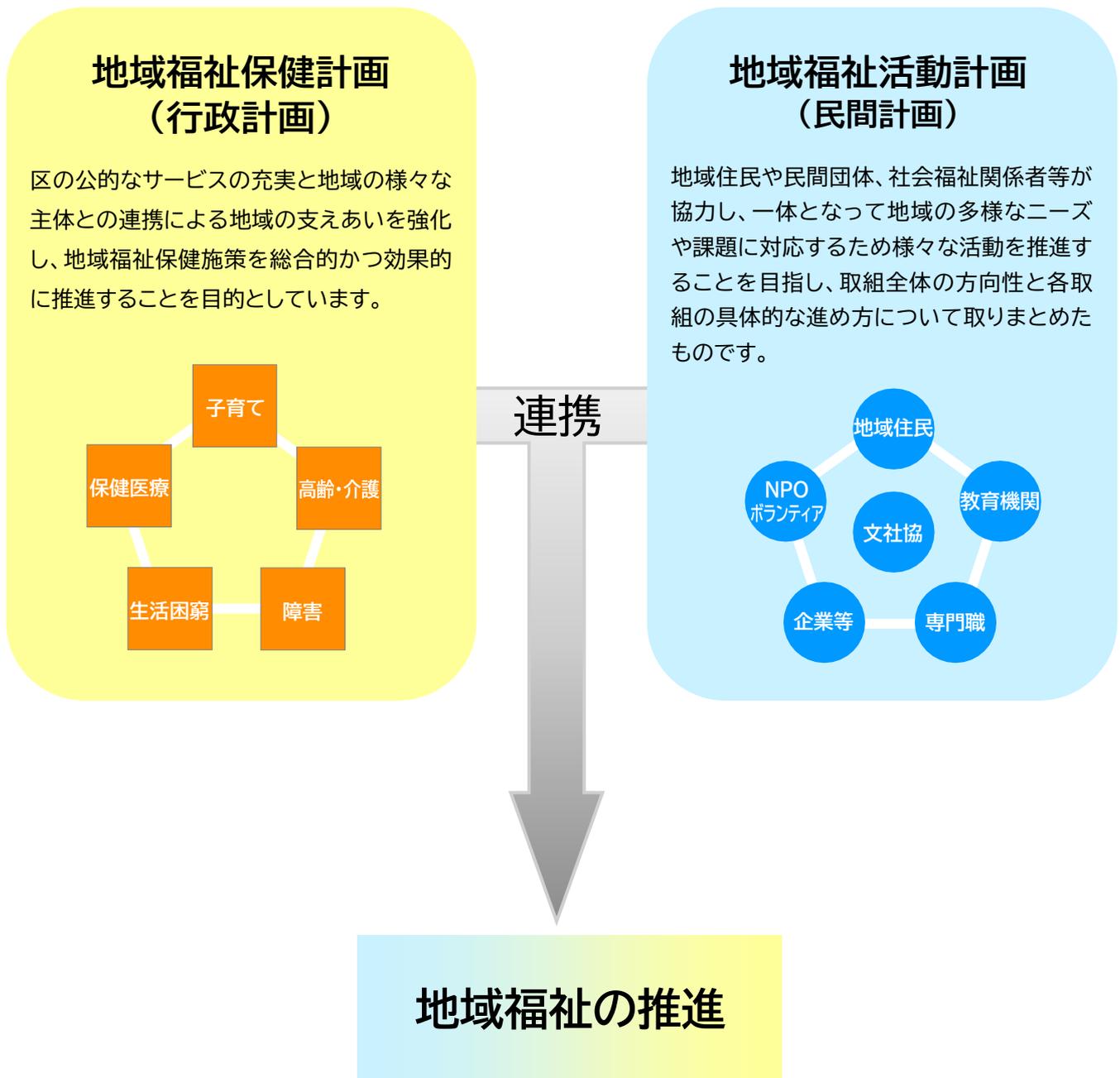


2 計画の位置づけ

計画の位置づけ

本計画は、文京区の地域福祉保健施策を推進するための基本となる総合計画である「文京区地域福祉保健計画」と連携した計画として策定します。行政計画である「地域福祉保健計画」と、地域住民をはじめとする地域の様々な活動主体の活動・行動計画である「地域福祉活動計画」が相互に連携し、文京区全体で地域福祉を推進していきます。

【図】地域福祉保健計画との連携

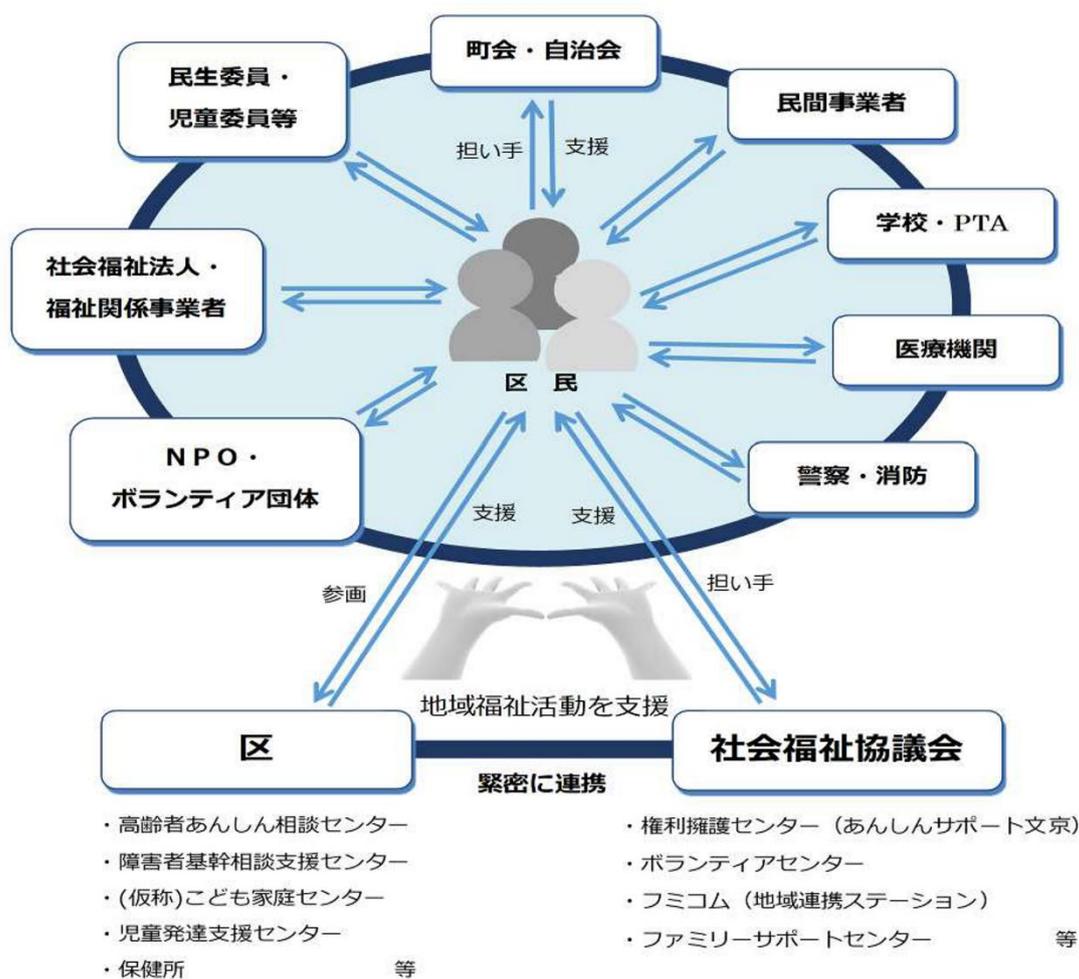


計画の推進に向けた活動主体間の連携

地域では、地域住民をはじめとした様々な活動主体が地域福祉の推進のために日々活動しています。本計画を推進していくうえでは、こうした地域による主体的な活動の裾野をさらに広げ、様々な活動主体間の連携を推進するとともに、支援される人たちがときには支援する担い手として活躍するような地域の支えあいを推進していくことが大切です。

本計画の推進の主な担い手である地域住民、地域福祉関係者・関係団体、社会福祉協議会は、区と緊密に連携し、協働して地域の支えあいを推進します。

主体間の連携を強化し地域ぐるみの支えあいを推進

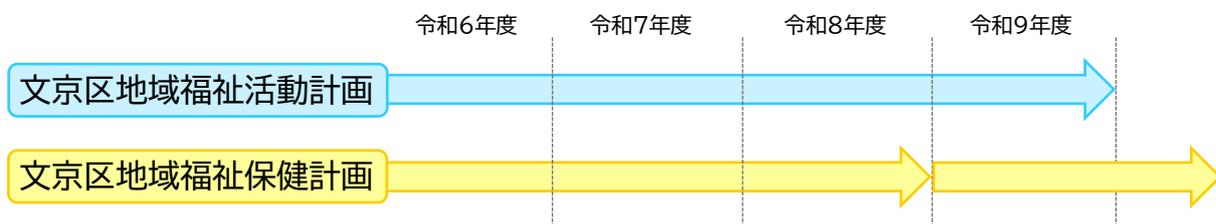


参考:文京区地域福祉保健計画(令和6年度～令和8年度)



3 計画期間

本計画は、令和6年度から令和9年度までの4年間を計画期間とします。





4 策定体制

(1) 計画の推進に向けた活動主体間の連携

計画を改定するにあたり、内容の検討や住民の意見を反映し最終的な審議を諮る機関として、区民、関係団体、学識関係者等による20名の委員で構成する「文京区地域福祉活動計画策定委員会」(以下、策定委員会)と、横断的な意見の調整を図り、計画案を作成する機関として、策定委員会の12名の委員で構成する「文京区地域福祉活動計画策定委員会作業部会」(以下、作業部会)を設置しました。

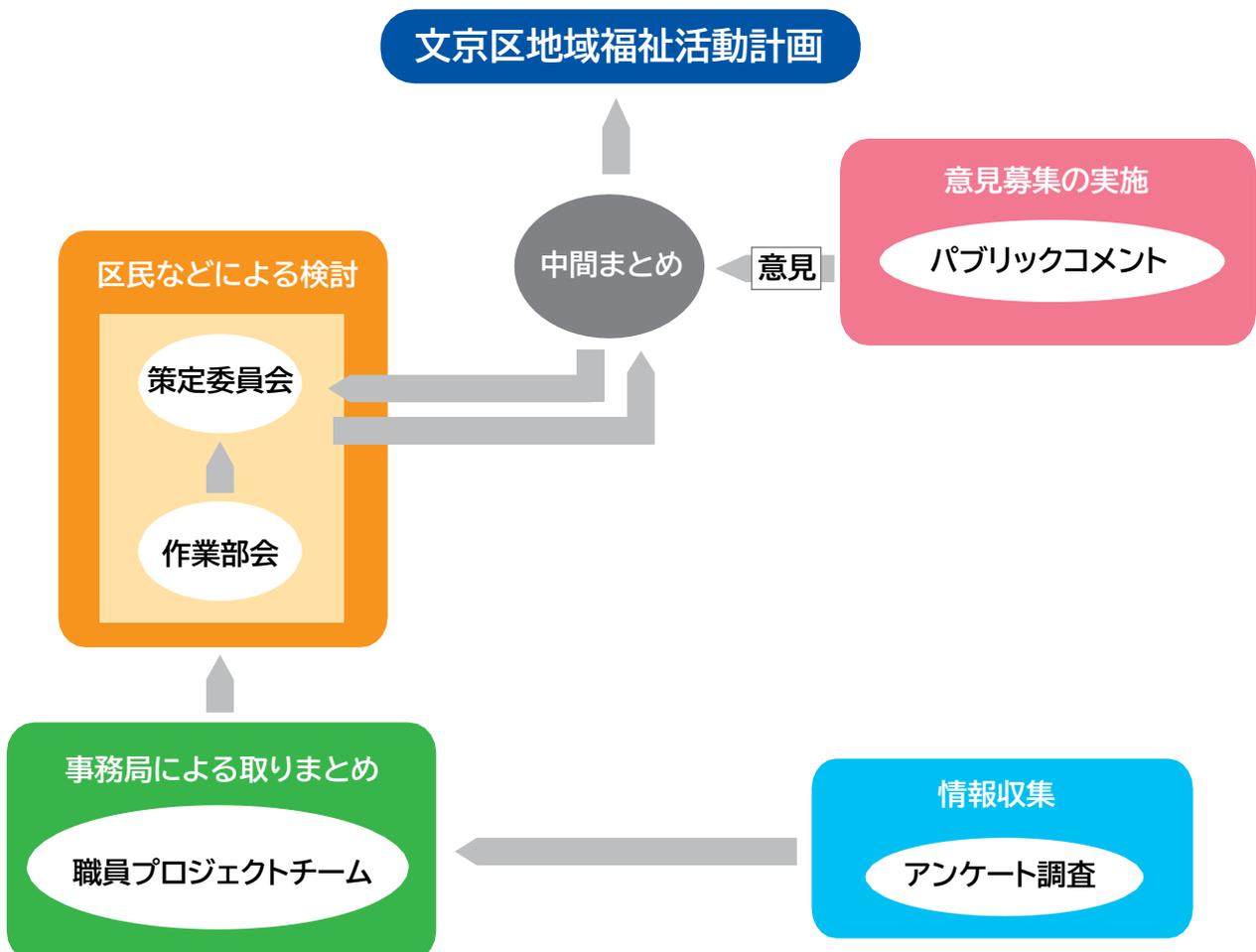
(2) 職員プロジェクトチームの設置

文京区社会福祉協議会職員で構成し、現状と課題を把握するために必要な資料、データの収集を行うための「職員プロジェクトチーム」を設置しました。

(3) 意見募集の実施

地域の関係団体を対象としたアンケート調査やパブリックコメントを実施し、広く区民の声を計画に反映しました。

【図】 策定体制





5 数字でみる文京区

文京区は、東京23区のほぼ中央に位置しており、面積は11.29平方キロメートルで23区内で9番目、また、人口は231,685人(令和5年住民基本台帳)で、23区内で18番目になっています。住民基本台帳による人口推移は、昭和45年から平成10年まで一貫して減り続けましたが、その後増加に転じています。少子高齢者といわれていますが、文京区では年少人口も増え続けています。これはマンションの建設などによる人口増加が、転出や死亡による人口減少を上回っているためです。しかし、将来的には少子化などの影響で減少に転じると予測されています。一方、一世帯あたりの人数が東京都平均よりも低く、高層マンションも急速に増えているため、つながりがつくりづらい方が増えています。

また、外国人も新型コロナウイルス感染症の影響で一時減少していましたが、現在では増加傾向にあり、異なる文化や背景を持つ人々が同じ社会に暮らすことで、多様性が高まっています。

一世帯あたりの人数
1.8人
世帯数
128,170世帯

令和5年10月1日 住民基本台帳

愛の手帳所持者数 **1,019人**

精神障害者保健
福祉手帳所持者数 **2,033人**

身体障害者
手帳所持者数 **4,331人**

令和5年3月31日 ぶんきょう(文の京)の社会福祉

難病医療券所持者数 **1,917人**

文京区地域福祉保健計画(令和6年度～令和8年度)

★POINT

障害者手帳所持者を見ると、特に精神障害者保健福祉手帳所持者が増加傾向にあります。

高齢者数 **43,638人**

高齢化率 **19%**

令和5年1月1日 文京の統計

ひとり暮らし
高齢者数 **11,947人**

令和2年 国勢調査

昼間人口 **353,648人**

夜間人口 **240,069人**

令和2年 国勢調査

生活保護
被保護者人数(月平均) **2,034人**

被保護世帯数(月平均) **1,867世帯**

生活保護率 **0.89%**

東京都の生活保護率 **1.98%**

全国の生活保護率 **1.63%**

令和5年3月31日 ぶんきょう(文の京)の社会福祉

★POINT

生活保護の保護率は、全国や東京都と比較して低くなっています。

1戸建て住居世帯数
24,971世帯

6階建て以上の
高層共同住宅居住世帯数
66,177世帯

前回比 **14%増**

令和2年 国勢調査

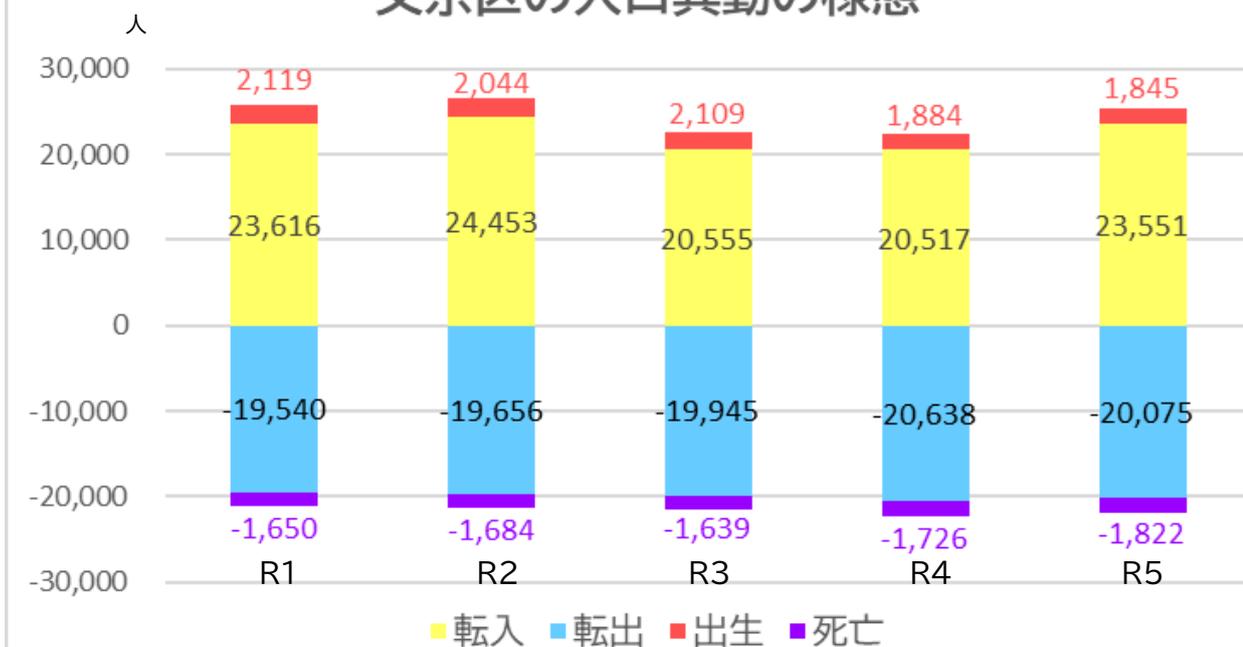
★POINT

高層マンションが急速に増えています。

★POINT

オフィスや大学などの教育機関も多く、昼間人口の人口密度は、23区の中で7番目に多くなっています。

文京区の人口異動の様態

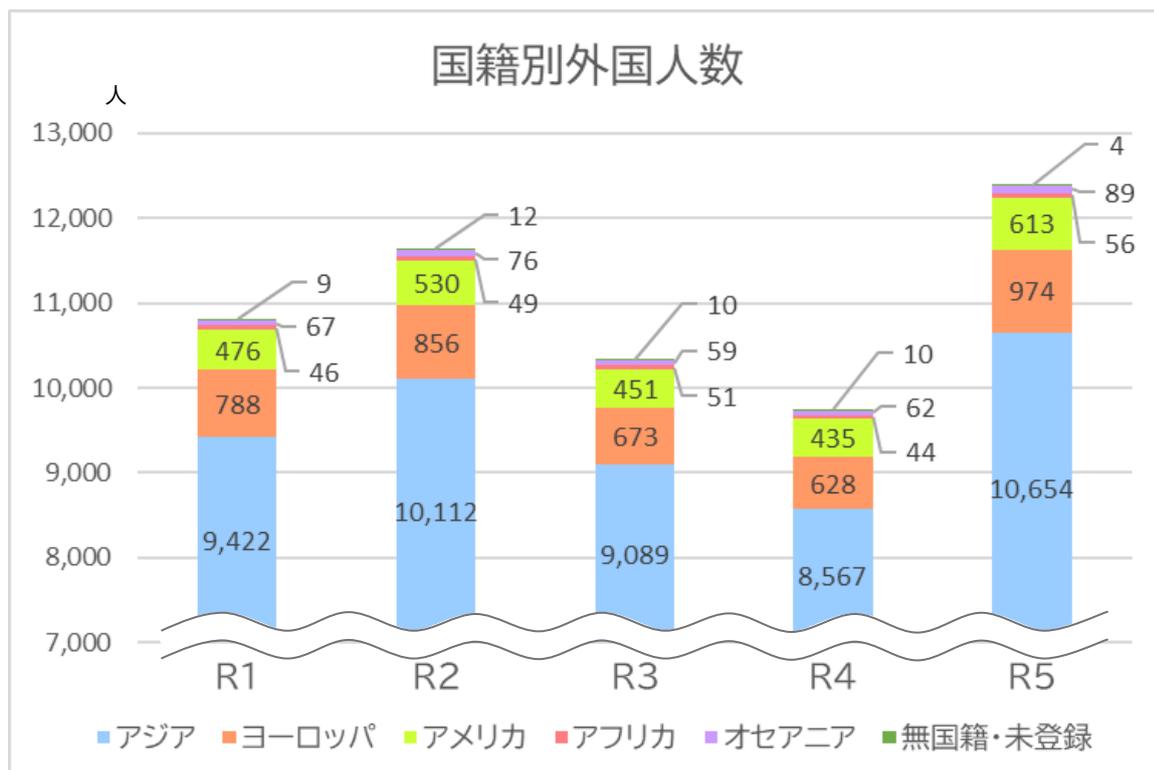


文京の統計(各年版)

☆POINT

人口異動は、新型コロナウイルス感染症の影響で一時減少していましたが、転入・転出ともに増加傾向にあります。

国籍別外国人人数



文京の統計(各年版)

☆POINT

外国人の数は、新型コロナウイルス感染症の影響で一時減少していましたが、増加傾向にあります。また、国籍別では、特にアジアの方が増加しています。

第2章

Chapter

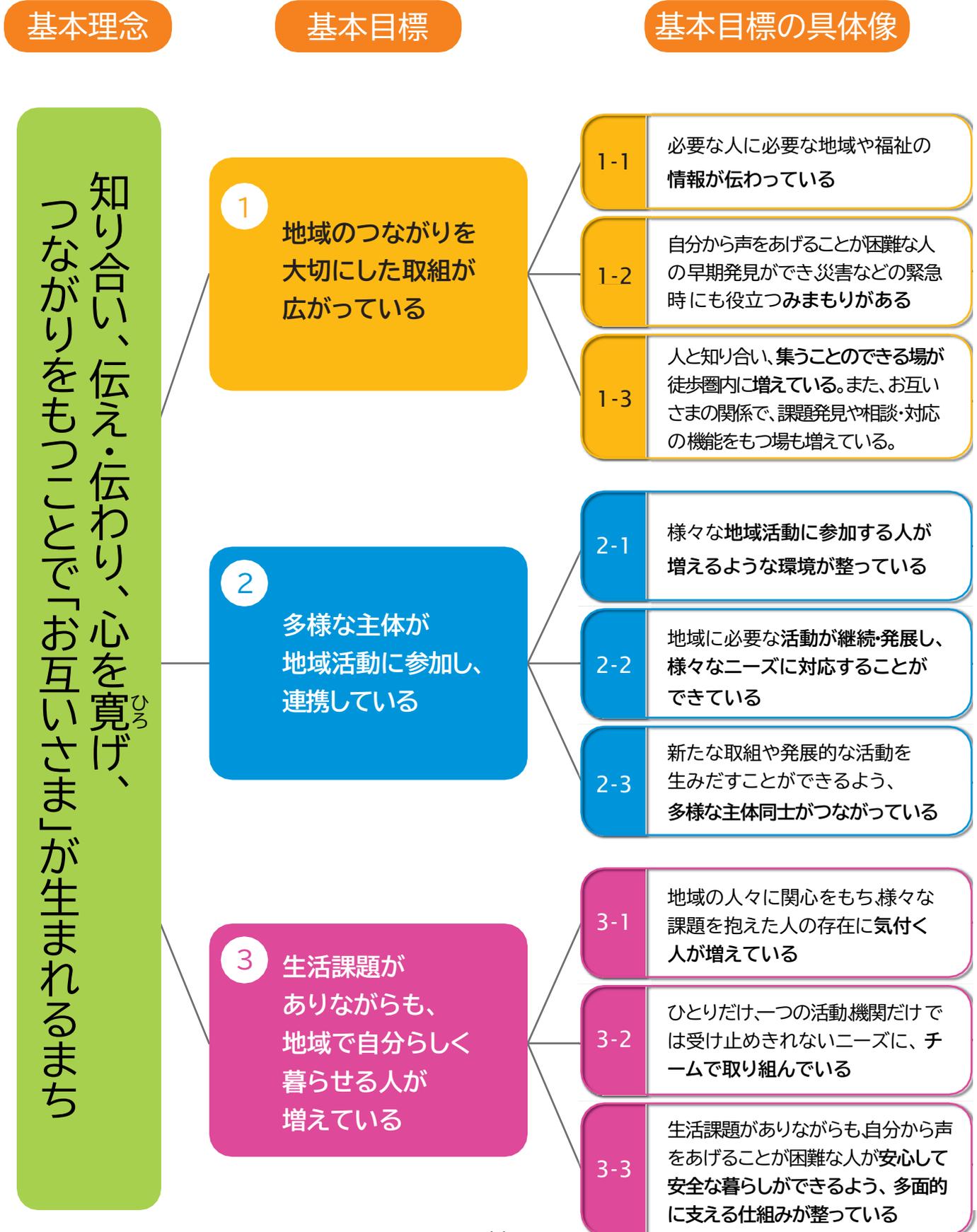
策定に向けた方向性



1 前計画(令和2年度～令和5年度)の成果と課題

前計画の策定から4年が経過し、計画改定の時期を迎えました。

令和2年度～令和5年度における取組の成果と課題について、文京区地域福祉活動計画推進委員会において評価しました。



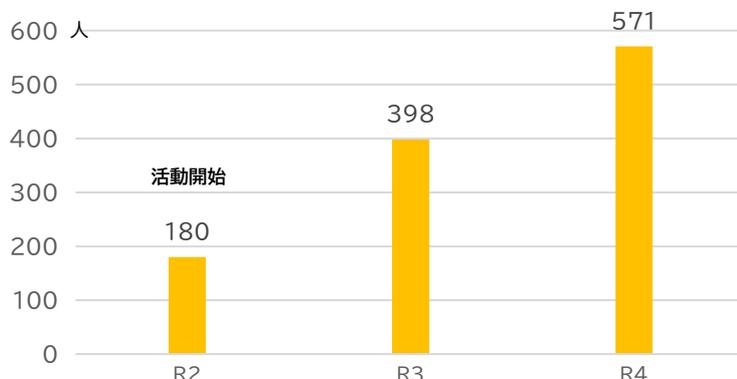
基本目標1 地域のつながりを大切にしたい取組が広がっている

1-1 必要な人に必要な地域や福祉の情報が伝わっている

成果

集うことや出向くことに制約が加わったコロナ禍では、情報の伝達について電子媒体や紙媒体等を利用しながら、人と人のつながりを大事にした取組をとおして多くの情報が伝えられました。

● オンラインでつながり、情報を届ける活動「^{かすた}加寿多ねっと」の取組と登録者数



課題

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から外出行動の抑制や3密を避けた行動が奨励されたため、情報を伝える手段においても電子媒体を活用した取組が広がりました。しかし、その一方で、「端末の操作が難しい」、「近くに相談できる人がいない」といった理由で、利用を躊躇する人たちがいることがわかりました。

1-2 自分から声をあげることが困難な人の早期発見ができ、災害などの緊急時にも役立つみまもりがある

成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、もともと孤立しがちな人たちがさらに孤立してしまう現状がありました。地域では、対面での活動が制限されていたなか、LINEや電話、手紙を送るなど多様な方法でのみまもりが行われました。

● みまもり訪問事業



「かよい〜の(※)」団体代表者に伺った取組の工夫

- ◆ 電話やLINEなどで連絡する
- ◆ 様子伺いのハガキを送る
- ◆ 家で少しでも体が動かせるように絵や写真を中心とした体操内容がわかるお手紙を送る

※介護予防を目的に、住民同士が定期的に集まり身体を動かしながら、お互いできることとしてみまもりや助け合いを行う活動



課題

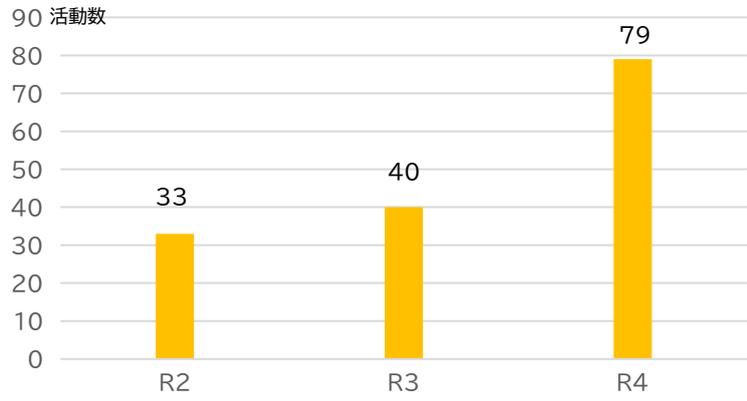
みまもり訪問事業では、訪問から電話に切り替えたことで、耳が遠く会話が難しいため、十分なみまもりをすることができない方がいました。また、新型コロナウイルス感染症の収束が見えてきても、一部の活動では、まだ再開できていない取組もあります。

1-3 人と知り合い、集うことのできる場が徒歩圏内に増えている。また、お互いさまの関係で、課題発見や相談・対応の機能をもつ場も増えている

成果

人と知り合い、集うことのできるサロンや、課題の発見、相談対応ができる多機能な居場所が5か所増えました。また、それに伴い活動数も増えました。また、居場所を通じて、必要な支援につながるケースもありました。

● 多機能な居場所及び活動数の増加



①風のやすみば ②氷川下つゆくさ荘 ③こびなたぼっこ ④しゃべり間処かづさ屋 ⑤Reなでしこ元町 ⑥こまじいのうち
⑦坂下テラス&動坂テラス

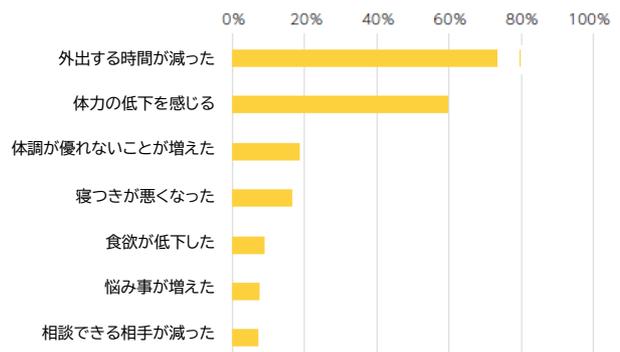
課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域で交流する機会や場が減少し、心身の健康状態の低下や社会的孤立の増加が懸念されました。改めて人とのつながりを通じた交流の重要性が再認識されました。

～ 居場所等の運営者から寄せられた相談 ～

- ◆ 家以外の居場所を必要としている人がいる。
- ◆ 「行けるところがなくなってしまった」と言っている人がいる。
- ◆ しばらく会わないうちに、認知症が進行してしまった人がいる。

● 心身の状況の変化に関する調査結果



令和4年度 地域福祉コーディネーター 生活支援コーディネーター活動報告書:文京区社会福祉協議会

基本目標1に関するまとめ

- 必要な人に必要な情報を伝えるためには、電子媒体や紙媒体だけでなく、その人の状況のある程度理解している人から伝えてもらう必要があります。
- 身近な人や場所だからこそできる相談や、本人からの「普段と違う」という小さな変化に気づけることがわかりました。普段のつながりを大切にしたい取組が必要です。
- 居場所は増えた一方で、居場所に行けない人の存在も明らかになってきました。居場所以外につながる方法が必要です。

基本目標2 多様な主体が地域活動に参加し、連携している

2-1 様々な地域活動に参加する人が増えるような環境が整っている

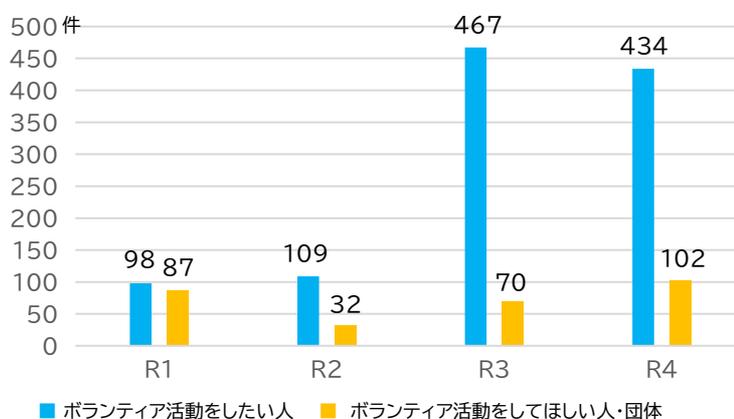
成果

新型コロナウイルス感染症の影響により対面で行う地域活動が制限されたため、令和2年度の終わり頃から、自宅でできる活動やオンラインで参加できるボランティア活動のプログラムを増やしたところ、「自宅でできることがあれば地域貢献をしたい」と参加を希望する人が増えました。

● 自宅でできるボランティア活動とボランティアの相談件数



自宅でできる活動「使用済み切手」の取組



■ ボランティア活動をしたい人 ■ ボランティア活動をしてほしい人・団体

文京ボランティアセンター調査:文京区社会福祉協議会

課題

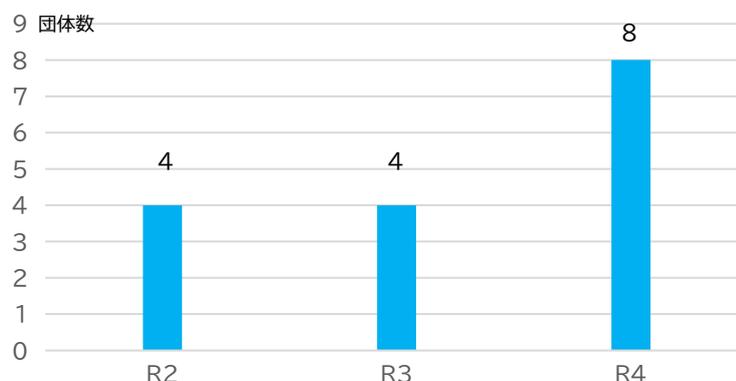
単発・短時間の参加を希望する人が多くなってきています。一方、継続的に活動する担い手の確保が難しくなっています。

2-2 地域に必要な活動が継続・発展し、様々なニーズに対応することができている

成果

ボランティア・NPO・企業・行政・学生(学校)・ソーシャルビジネスなどで活動する人により、様々な地域課題の解決や地域の活性化が進められました。

● Bチャレ(提案公募型協働事業)における助成団体数



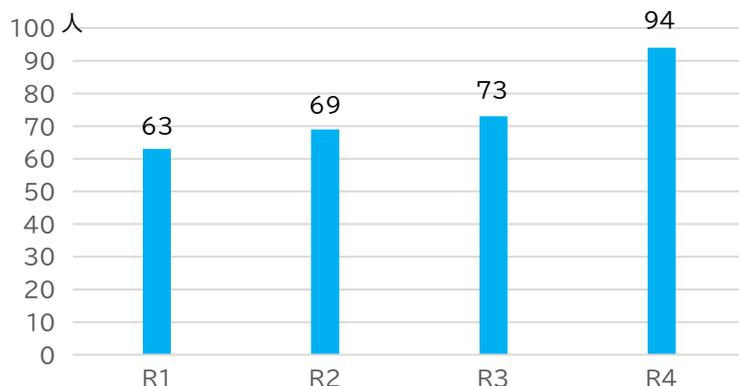
課題

新たなニーズとして、不登校・ひきこもりの子どもに対する支援ニーズが見えてきました。しかし、不登校・子どもに対する支援は、専門的な関わりを必要とすることもあり、地域活動だけでは対応が難しく、またその一方で、専門職だけでも対応することが難しいことも見えてきました。

成果

これまで一緒に活動してこなかった団体との情報交換や連携につながるような取組が進みました。連携や協働をすることによって、新しい価値やより良いものを生み出すきっかけにつながりました。

● 企業地域連携推進ネットワーク会議への参加登録者



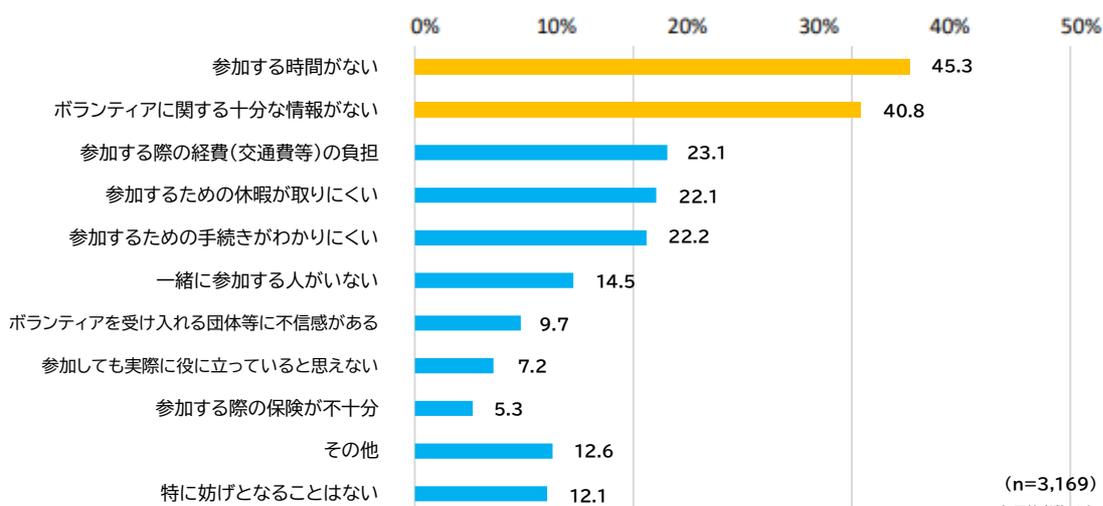
課題

取組に参加した方からは、「他の団体と協力したいと思っていたが、何から始めたらいいのかわからなかった」「相手の取組を知ることができて良かった」などの声がありました。多様な地域のニーズに対応していくためには、多様な主体同士の連携が必要です。しかし、団体同士が連携するためには、そのきっかけが必要であることもわかりました。

基本目標2に関するまとめ

- 新たな参加者を増やすためには、「参加する時間がない」、「活動に関する十分な情報がない」などの参加の妨げとなる要因を考慮することが必要です。

● ボランティア活動への参加の妨げとなる要因



令和4年度 市民の社会貢献に関する実態調査・内閣府

- 継続して活動することができる担い手や、不登校・ひきこもりなどの子どもに対応することのできる知識・経験のある担い手の確保が必要となっています。
- 新たなニーズに対応するためには、多様な主体同士がつながることが必要です。また、多様な主体同士がつながるためには、つながるための機会をつくる必要があります。

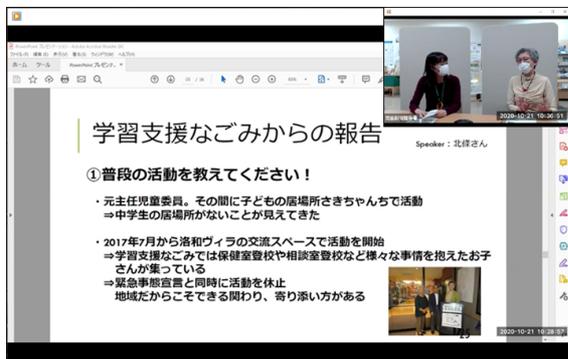
基本目標3 生活課題がありながらも、地域で自分らしく暮らせる人が増えている

3-1 地域の人々に関心をもち、様々な課題を抱えた人の存在に気付く人が増えている

成果

文京区地域公益活動ネットワークに参加している社会福祉法人が、子ども食堂を運営している人から活動内容を聞き、地域の実態や課題を知る取組が行われました。これにより、地域では様々な活動が行われていることや生活課題を抱えた人がいることを知り、その現状に関心をもってくれる人たちが増える機会になりました。

●文京区地域公益活動ネットワークによる「緊急食支援プロジェクト報告会」



～ 参加した社会福祉法人から寄せられた感想 ～

- ◆ 場所、時間、お一人お一人の力の提供により、支援活動がとても身近なところで行われていたことを改めて知ることができた。
- ◆ 抱えている課題や、不安について知ることができ、また自分たちに何ができるか考えさせられた。

課題

地域には様々な問題や不安を抱えて過ごしている人がいることに気づく人が増えてきました。今後は、困りごとを抱えている人に気づいたときに、「どこに相談したらわからない」など一人で抱え込まないような相談しやすい地域づくりが必要です。

3-2 ひとりだけ、一つの活動、機関だけでは受け止めきれないニーズに、チームで取り組んでいる

成果

新型コロナウイルス感染症などの影響により、新しく顕在化した多様なニーズに専門職や地域住民が連携してサポートする取組が行われました。

● 総合支援資金アンケート調査及び支援回数

回答数/対象者数 1125/1336 (回答率 84.2%)

支援回数が多かったケース (支援回数30回以上) **33件**

世帯状況	57.6%	単身
	39.3%	家族同居
	6.0%	友達と同居

現在困っていること (複数回答)	93.9%	生活費が不足
	75.7%	家族のこと
	54.5%	税金・保険料等が払えない
	48.4%	仕事の収入が少ない
	21.2%	家賃が払えない
	15.1%	病気のこと

～ チームとなって取り組んだ事例 ～

飲食店に勤務する母親から「新型コロナウイルスの影響により、収入が減少したため、生活が困窮している」との相談が入った。この家庭には子どもがいたため、コロナの貸付制度の申請だけでなく、文京区地域公益活動ネットワークと連携し、緊急食支援を行った。また、緊急食支援では、主任児童委員と商店が連携し、みまもり活動も行った。

課題

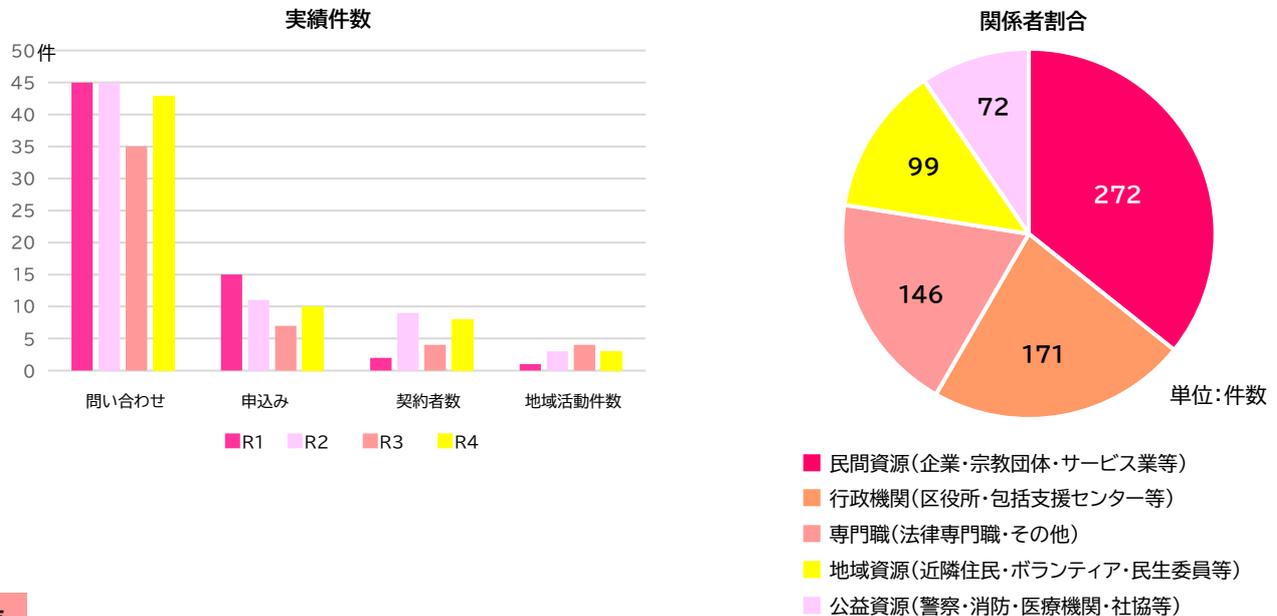
障害のある家族の問題など、本人だけでなく家族を含めた支援が必要な場合があります。また、つながり先がないが福祉的な課題を抱えている若者もいました。このような新たなニーズに対応するため、複数の関係機関や地域がつながり、連携してサポートしていく必要性が見えてきました。

3-3 生活課題がありながらも、自分から声をあげることが困難な人が安心して安全な暮らしができるよう、多面的に支える仕組みが整っている

成果

身近に頼れる人がいなくても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、元気なうちから死後の準備まで一体的にサポートする取組が、多様な関係機関・団体との連携で進みました。

● 多様なネットワークによる終活等支援の取組「文京ユアストーリー」



課題

将来、認知機能の低下により判断能力が十分でなくても、状況に合わせた適切な支援を受けながら地域で安心して安全な暮らしを送るためには、支援を行う関係機関・団体同士がお互いの役割を理解しながら本人の意思を尊重した支援を行うことが必要です。

基本目標3に関するまとめ

- 身近な場所だからこそできる相談がありました。身近なところで、困りごとを抱えている人に気づき、必要な支援につなぐことができる仕組みが必要です。また、困りごとを発見したときに一人で抱え込まない地域づくりが必要です。
- 困窮状態にある人や社会的孤立状態にある人は、個人あるいは世帯でさまざまな分野にわたる課題を抱え、複合的な支援を必要としている場合があります。そのため、生活、住まい、医療、就労、教育など複数の関係機関・団体同士がつながり、連携して支援していくことが必要です。また、高齢者、障害者、子どもなどの分野別に活動している関係機関・団体が、分野を超えて連携できるためのネットワークの構築が必要です。
- 誰でも経済的困窮や社会的孤立の状態になりうることもあり、特別なことではないことや、誰でも自分の意思が伝えられ、その意思が尊重されるような意識の醸成や支援が必要です。



2 策定委員会・作業部会における検討

策定委員会・作業部会では、文京区の地域福祉をめぐる現状と課題に関して話し合いが行われ、様々な意見が出ました。前計画策定時には、社会的孤立の予防についての意見交換が多くありましたが、今回は生活課題がある人だけではない、対象像が広がった意見交換が行われました。

作業部会①における検討のまとめ

「地域には**多様**な人たちがいて、つながり方も多様である。身近な地域（日常）の中で、**その人らしい**人や場につながりを持つ」ことが大事。

令和2年度から令和5年度までの地域福祉活動計画において、取組の成果は P12～P17で記載しているとおりです。新たに見えた課題は、以下のとおりです。

- ☑子ども・若者関連の相談が増加している
- ☑新型コロナウイルスの貸付制度で複合的な課題を抱える人が顕在化している
- ☑集いの場は増えているが、そこに来ることのできない人がいる

【作業部会①の議論のテーマ】

- ◎「つながりが広がりづらい人」とは、どのような人でしょうか。
- ◎うまくつながったこと、つながれなかったことはあるでしょうか。
- ◎どのような活動があれば、つながりをつくれるでしょうか。

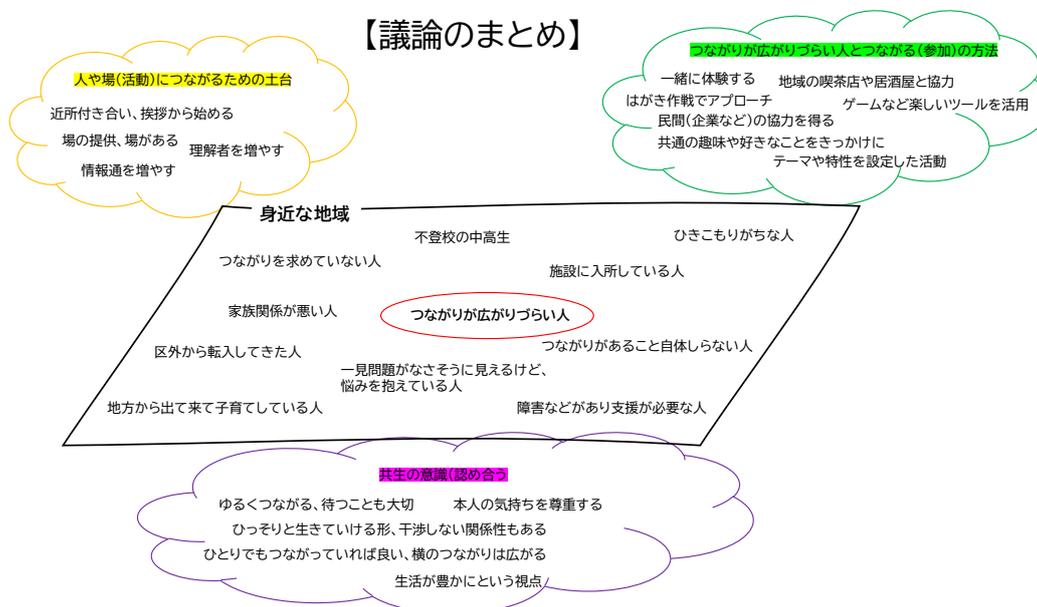
【出された意見】

つながりが広がりづらい人とは、どのような人たちか。

- 発達の特性や障害などにより、支援が必要な人。
- 地方から転入してきている人が多い。
特に子育てしている人は、助ける存在が近くにいないので孤立しやすい。
- 赤ちゃんのいる親。児童館などで会って初めて地域にいることを知ることがある。
- 小学生は学童や地域活動の場が増えているが、中高生の不登校が課題。
- 若者の発達障害が増えている。
- 人間関係に期待している人が減っているのではないか。
- 聴覚障害などがあり、情報を得ることに課題がある人もいる。
- グループホームや施設に入所している人は、地域とつながりを持つ機会はあるのか。
- 一見問題がなさそうに見えるが、見えにくい悩みを抱えている人がいる。
- 家族関係が悪いと、外との信頼関係を築くことに課題が出てくることが多い。
- ひきこもりがちな人。以前に比べるとひきこもりの境界線が変わっているのかもしれない。
- 関係が深くなると恐怖を感じる人(ヤマアラシジレンマ)。関係が広がりにくい。
- マンションに住んでいる人が多い。つながりがあること自体を知らない人が多いのではないか。
- そもそも、つながりを求めている人、関心がない人もいる。

つながりが広がらばいい人となつがるためには、どうすればいいか。

- 本人の気持ちを尊重することが大切である。
- だれか一人でもつながっていれば、横のつながりは広がっていくと思う。
- 生活の質を上げるための支援は入っているが、生活を豊かにするためにつながりを持つという視点が必要だと感じる。
- 同じような仲間からの声かけや、共通の趣味などをきっかけにする。
- 好きなことや興味のあること、自分が得意なことなど様々な切り口があると良い。
- 紹介するだけではつなげれない。一緒に体験してくれる人がいてつながることができる。
- だれでも来られる場があるとつながりやすい。そこにゲームなど楽しいツールがあると良い。
- だれでも来られる場ではなく、テーマや特性の設定がある場の方がつながりやすい人もいる。
- コロナ禍に民生委員が「はがき作戦」を行った際、訪問した時には素っ気なかった方から丁寧なお返事がきた。そこから世間話ができる関係になった。
- つながりを持てるフックを増やせると良い。いろいろな情報を持っている人や理解者を増やす。
- 喫茶店や居酒屋などその人なりのコミュニティ(つながり)があるのではないかな。
- 地域の居場所や商店や企業(民間)と連携できると良い。
- 近所で挨拶するだけの関係性でも良い。コミュニティに入りにくい人もいる。
- 無理につながるのでなく待つことも大事。その方がゆるやかにつながることができることもある。
- ひっそりと生きていける形、干渉しない関係性もある。そこも大事にしたい。



前計画では、活動を増やすことがつながりをつくる方法として議論されましたが、作業部会①では、活動を増やすだけでなく、日常生活を大切にしながらつながりをつくっていくこと、多様な人たちにその人らしい活動や場などのつながりの根っこを広げていくことが必要であることが分かりました。つながりと言っても、活動や場に参加することだけではなく、その人らしい人や場につながりを持つことが大切です。日常生活の中でつながりを広げていくことが必要だと見えてきました。

作業部会②における検討まとめ

「より豊かな生活を送るため、多様な人たちに合わせた**参加(関わり)の機会がある**」ことが大事。

これまでの取組から見えてきた新たな課題と作業部会①での議論から見えてきた課題は、以下のとおりです。

- ☑多様な担い手の開拓、確保の必要性
- ☑地域には多様な人たちがいる
- ☑多様な人たちと多様なつながり方がある

【作業部会②の議論のテーマ】

- ◎現在は、地域活動や地域課題に関心を持っていないが、これから持つ可能性がある人とはどのような人たちでしょうか。また、どんな仕掛けがあれば関心や興味を持つことができるでしょうか。
- ◎関心を持った人が、実際に地域活動に「参加する」ためにはどのような仕掛けが考えられるでしょうか。また、参加後に運営側になっていく可能性はあるのでしょうか。
- ◎課題を抱えた個人が、受け手としてだけでなく主体として地域や活動に「参加する」ためには、どのようなことが必要でしょうか。

【出された意見】

地域への参加(関わり)に関心を持っていない人たちが、参加や関心を持つためには、どのような仕掛けがあると良いか。

- 地域の居場所などに来ない人の方が普通だと思う。参加する人は、口コミや誰かに連れて来てもらうことが多いのではないか。
- 興味関心がない情報は入りづらい。地域の居場所が身近にあっても知るきっかけがない、一見分かりにくい。喫茶店に行くより居場所に行くのはハードルが高いので、きっかけが必要。
- 通りすがりの人に声をかけたり、外に麦茶を置いたり地域の居場所を知ってもらえる工夫をしている。
- 単発のイベントでも一回来てもらえることが大事。まずは知ってもらうこと、顔見知りになることから始める。

地域への参加(関わり)に関心を持っている人たちが、参加することができるためには、どのような仕掛けがあると良いか。

- 学ぶ場、体験できる場があると良い。
- 場があると誘いやすい。居場所や拠点があることがとても重要だと思う。
- テーマがあると人は集まりやすいが、だれでも来られるイベントの方が周知しやすい。
- プログラムに興味があると参加するのではないか。誰がどのように誘うかも重要。
- 多様な団体と一緒に活動すると参加者層の幅が広がったことがある。
- 居場所の運営側同士がつながっている。

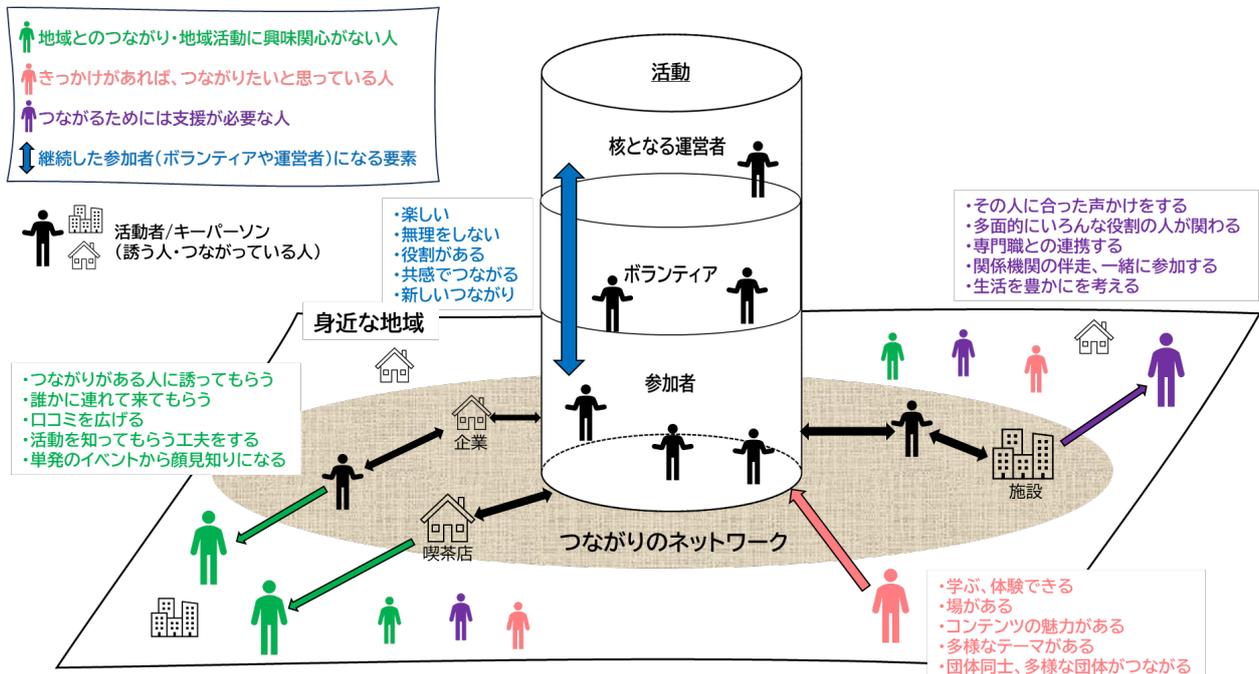
何らかの課題がある人たちが参加(関わり)できるために必要なことは何か。

- 課題がある人には、多面的にいろいろな人たちがいろいろな役割で関わる必要がある。
- 既存の場で特別扱いするのではなく、その人に合った場(活動)に声をかけることが大事。
- 同じような課題を持つ人や持っていた人が誘うと参加しやすいのではないか。
- 専門的な支援が必要な人もいるので、専門職との連携が必要。
- 専門的な関係機関などが伴走してくれると良い。一緒に活動に参加してくれるとつながりやすいことが多い。
- 生活を豊かに、楽しくするための支援を受けることに遠慮する人もいる。一緒に行こうと言ってくれる人がいると変わるのではないかな。

継続した参加者(ボランティアや運営者)になってもらうために必要なことは何か。

- 活動(運営)する側が楽しい、無理をしないことがとても大事。
- 活動に共感できる、活動の中でちょっとでも役割があると良い。
- 共感し合えれば、一緒に活動できるし、新しいつながりの縁も広がっていくと感じる。
- 同じような活動をしている人たちと課題解決に向けて話し合うと、解決するための糸口が見つかるかもしれない。

【議論のまとめ】



作業部会②からは、つながり(関わりの機会)をつくるためには多様な仕掛けや機会が必要であること、また、生活課題がある人だけではなく、生活をより豊かにするという視点を持って、多様な人たちに合わせたつながり(関わり)の機会が必要であることが分かりました。活動に直接参加しなくても、作業部会①で議論された、その人らしいつながりを持つことで、芽づる式に他の活動や関わっている人、活動内容を知っている人につながっていくことが見えてきました。

本計画では、上図の円柱で示した、活動の「核となる運営者」の関わりを「参画」、当日にお手伝いするボランティアや参加者の関わりを「参加」として捉えています。

作業部会③における検討まとめ

「知り合うところから、ともに目的を共有し、お互いの強みを活かして
ネットワークで継続的に取り組んでいくこと」が大事。

これまでの取組から見えてきた新たな課題と作業部会①②での議論から見えてきた課題は以下のとおりです。

- ☑住民と専門職との連携ができる仕組みやネットワークの必要性
- ☑個人の意思が尊重される意識の醸成
- ☑多様な人たちと多様なつながり方があり、多様な人たちに合った参加(関わり)の機会がある
- ☑課題がある人に対してだけではない、連携・協働の必要性

【作業部会③の議論のテーマ】

◎現在、委員の皆さんが活動される中で、専門の相談支援機関(専門職)と地域活動とが連携・協働する際にどのような工夫があるといいでしょうか。

①知り合う場面 ②関わり合う(連携)場面 ③理解し合う(協働)場面

【出された意見】

現在の活動の中で、専門の相談支援機関(専門職)と地域活動が連携・協働する際に、
どのような工夫があると良いか。

①知り合う場面での工夫やポイント

- 活動の理解や専門職・地域活動同士の声かけや日頃からの関係性を大切にする。
- 住民と専門職といった境界線を無くし、相互に考えられる活動などが良い。
- 地域活動団体とのつながりにはキーパンスンのような方が間に入っていることが多い。
- 地域活動を見学し理解すること。理解している人から紹介されると安心感がある。
- 他の主体(人や活動)とも関わり合うことで、つながりが広がる。
- 関わりのおきっかけがあっても、実際に話ができるような関係性をつくるには時間がかかる。
- 誘う時には、待っているのではなく地域へ声をかけに行く(きっかけをつくったりする)。
- 同じ活動同士や同じ地域で同じ課題を抱える方とつながることも大切。
- 地域活動に生活課題のある方などが参加する際には、慎重にマッチングをしている。
- 専門職が専門職を紹介することもあるが、地域で出会った方に向いてる方を専門職へスカウトすることもある。

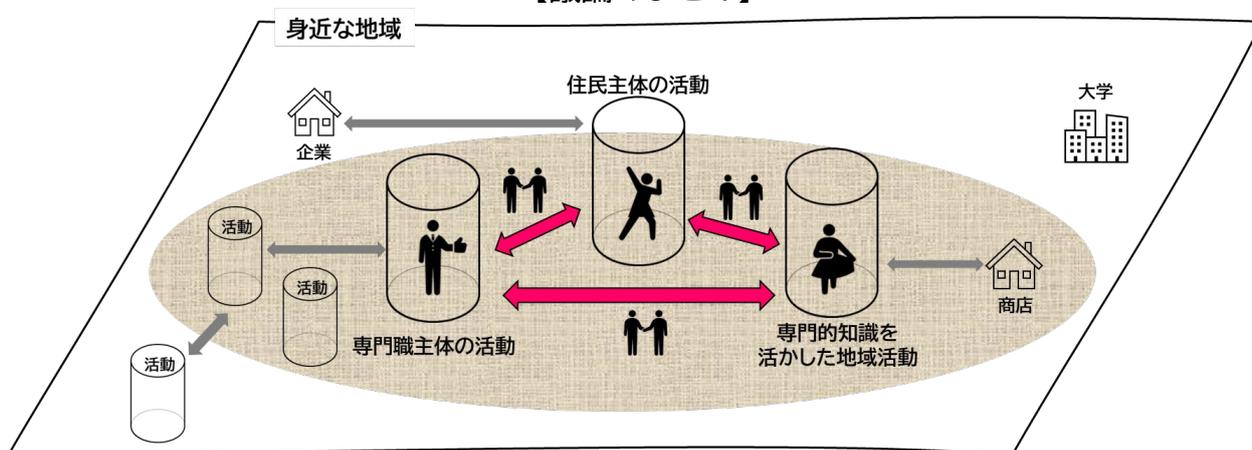
②関わり合う(連携)の時の工夫とポイント

- 専門性のある活動には、一定の情報共有と相談できる継続した専門職との関係性が必要。
- 「住民主体の活動」や「専門的知識を活かした地域活動」や「専門職主体の活動」と分けたり選んだりするのではなく、その活動同士の重なりを大きく育てていくことが必要。
- 課題解決のための支援が終わると関係が切れてしまうことがあるため、役割の線引きをせずに継続的な関わりを持つことが必要。
- 各活動や専門職などにつながりだけでなく、関係性を継続することも大切。
- アドバイスを求めるだけでなく、一緒に悩む関係性になるとお互いに助け合えて良い。
- 生活課題のある人が活動する際には、本人の特徴や体調不良のサインなどを共有し、何か困った際にはいつでも連絡を取り合えるようにする。
- 一緒に考えられる継続した関係性があると、安心して活動することができる。それにより、関われる幅が広がる。
- 各活動が、お互いに継続した関係を築くには、協働して何かを実施するなどのプロセスが大切。

③理解し合う(協働)の場面での工夫やポイント

- 「そういう考え方もあるよね」と違いを認めるなどのお互いに柔軟性のある関わり方も必要。
- 生活課題のある人も専門職、地域住民と分けなくても良く、それぞれの能力や役割を活かした協働を考えることが大切。
- 役割の線引きをせずに継続的な関わりを持つ。

【議論のまとめ】



【知り合う場面でのポイント】

- ・活動を理解すること、理解している人から誘う方が安心感がある
- ・誘うときは、声をかけにくい
- ・慎重にマッチングする
- ・日頃からの関係性を大切にする
- ・関係形成には時間がかかることを理解する
- ・住民と専門職の境界線をなくす

【関わり合う(連携)の場面でのポイント】

- ・一定の情報共有する
- ・他の主体(人や活動)とも関わり合う
- ・一緒に考えられる継続した関係性があると安心、関われる幅が広がる
- ・地域/専門性/専門職と分けたり選んだりするのではなく、重なりを大きく育てていくことが必要
- ・お互いに継続した関係を築くには、プロセスが大切

【理解し合う(協働)の場面での工夫やポイント】

- ・それぞれの能力や役割を活かした協働を考える
- ・お互いに柔軟性が必要
- ・その人の生活を豊かにするときに、活動がどのように役立つかを考える
- ・役割の線引きをせずに継続的な関わりを持つ

作業部会③では、活動主体同士がつながると、その接点から新たな活動が生まれたり、つながりが広がったりすることが分かりました。そのためには、地域や専門職、活動団体との距離が近いこと、知り合うところからお互いの強みを活かしたチームとしてネットワークをつくるのが大切であることが分かりました。継続した関わりで取り組んでいくことは、地域、専門職、専門性を持った人や主体が連携・協働するために必要であることが見えてきました。

策定委員会における検討まとめ

策定委員会においても様々な意見交換が行われました。

出された意見を ①身近な地域 ②参加・参画 ③連携・協働 の3つにまとめました。

<p>身近な地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● マンションが増加しているが、町会に入らない人も増えてつながりづらくなっている。高齢化のため、世代も変わった。何かあった時に SOS に気づくことが困難で、気づくための接点をつくる必要がある。 ● 災害が起こってから初対面同士で対処するよりも、災害が起こる前から顔の見える関係づくりが必要。 ● ひきこもりが増加し、コロナ禍で不登校も増えている。介護をしていた中高年世代の孤立もある。 ● 地域の人に支えてもらいたいが自分のことを知られたくない矛盾もあり、そもそもつながり自体を求めている人もいる。 ● 継続して声をかけ合える関係でつながりを持つことが大切。困った時に思い出してくれるような関係性でありたい。 ● 地域情報を良く知っているつなぎ役がいると、孤立予防になる。
<p>参加・参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 近所だから付き合いにくい人もいる。その人ごとの興味関心などその人に合わせてつながりをつくる必要がある。 ● 地域に参加しない人たちにどうアプローチするか。専門職や福祉的な立場を見せず、自然に関わっていける方法も必要。 ● 特に高齢者がひきこもりにならないためには、いつでも気軽に集える場や一緒に活動する仲間が必要。活動を伝え、参加を促すきっかけづくりが重要。 ● 専門職に相談することにハードルの高さを感じる人もいる。地域活動と連携して一緒に活動することで参加しやすくなるのではないかな。 ● 集いの場では対話が大切。いろんな考え方の人が集える場になるように継続した信頼関係を築くことを大切にしている。
<p>連携・協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の課題を抱えていて、ひとつの機関だけでは対応できないケースが増えている。発見から解決するまでの仕組みを行政も含め、重層的に横のつながりを強くして取り組む必要がある。 ● 地域住民だからこそ支えられることもあるのではないかな。広報や研修の機会などを通じてアンテナを張る人を増やしていけるのではないかな。 ● 専門職チームだけで関わっていても当事者が孤立したままになってしまうことがある。他の活動者などと連携し共有することが、多様性のある地域社会には必要。 ● 高齢・障害・子ども・貧困などカテゴリー分けした支援には限界がある。 ● 専門職も地域もお互いが隙間を意識しながら支え合う社会が理想。



3 本活動計画の策定に向けた方向性について

①「身近な地域」についての議論

前計画では、「社会的孤立を解決するための早期からつながる仕組み」がキーワードでした。

今計画では、「地域には孤立している人だけではなく、つながりを求めている人がいる」「その人らしいつながり方を大切にする」など、「対象像の広がり」や「つながり方の多様性」というキーワードがあげられました。また、そのような多様なつながり方を実践するため、「地域活動を増やすだけではなく、人と人、活動主体同士のつながりに注目することが大事」とし、「それぞれのつながりを大事に育てながら、つながりを芽づる式にしていくことも必要」という視点があげられました。

②「参加・参画」についての議論

前計画では、「地域のニーズが多様化している視点から、多様な主体による活動への参加」がキーワードでした。

今計画では、地域ニーズに対応するためだけではなく、より広い対象の人や団体に参加・参画を推進するうえでは「楽しさ」「より豊かな生活」という視点が加わることが重要になることや、一人ひとりの関心や参加意欲、個性に着目した「多様な参加(関わり)機会の確保」というキーワードがあげられました。

③「連携・協働」についての議論

前計画では、生活課題がありながらも自分らしく安心・安全に地域で暮らすために「生活課題への気づき」と「地域住民と専門職、公的機関との連携」がキーワードでした。

今計画では、「地域住民と専門職の継続した関係性」や「活動主体同士の横のつながりと重なり合い」など、地域住民と関係機関・団体がスムーズに連携するための具体的なキーワードがあげられました。

前計画のキーワード

今計画のキーワード

早期からつながる仕組み

身近な地域

対象像の広がり、多様性
その人らしさ

多様な主体による活動への参加



参加・参画

参加(関わり)の多様な機会の確保
楽しさ、より豊かな生活

生活課題への気づき

地域住民と専門職、公的機関との連携

連携・協働

継続した関係性
主体同士の横のつながり、重なり合い

第3章

Chapter

文京区地域福祉活動計画がめざすもの



1 計画の基本理念と基本目標

計画の基本理念

この基本理念は、前計画で策定したものです。この計画を踏襲しながらも「多様性」や「より豊かな」など新たな視点を加え、社会の変動に応じた取組を進めていくものとします。

知り合い、伝え・伝わり、心を寛げ、 つながりをもつことで 「お互いさま」が生まれるまち

課題を抱える状況になることはどの年代の誰にでも起こりうることです。しかし、課題が深刻化してからすぐに相談することや、制度につながることは難しいため、普段から信頼できる人とつながっておき、周囲の人が状況を早期に発見できるようにしておくことが重要となります。しかし、社会的な立場や、その人にとって心地よい関係は人によってそれぞれ異なります。このような現代社会の中で人々の様々な状況に対応できるよう、つながるための多様なしかけづくりが求められます。

このような人々の現状や課題を踏まえ、これまでの取組を充実させるため、地域住民同士がまず顔見知りになり(知り合い)、自分のこと・困りごとなどを人に伝え(伝え)、聞いた人に伝わり(伝わり)、寛容な心で受け止め(心を寛げ)、住民同士や多様な活動団体などをつながりをもつことで(つながりをもつ)、制度・分野ごとの「縦割り」や「支援する」「支援される」という関係を超えて、「お互いさま」で助けあう気持ちが醸成されるまち(「お互いさま」が生まれるまち)を目指します。

令和2年度～令和5年度地域福祉活動計画より

計画の基本目標

基本理念を実現するために3つの基本目標を定め、取組を進めていきます。



地域には多様な人たちがいて、つながり方も多様である。身近なところで、気にかけて、声をかけ、関心を持ち、支え・支えられる関係性が増えている。

地域で暮らす、多様な世代や状況にある人たちが、知り合い、つながることで、様々な課題を抱えたときにお互いが気づき、課題が深刻化する前に適切な制度や支援が受けられるまち。地域の人がつながることで、安心して暮らすことができ、住んでよかったと思えるまちを目指します。



より豊かな生活をおくるため、多様な人たちに合わせた参加・参画の機会が広がっている。

多様性を尊重した幅広い参加の促進として、一人ひとりの関心や参加意欲、個性に着目した多様な参加・参画や関わりの機会があるまち。また、地域活動への参加・参画をとおして、参加者がやりがいを感じ、日々の暮らしが楽しくなるなど、より豊かな生活を送ることができるまちを目指します。



地域と関係機関、団体が知り合い、一緒に悩み・考え、お互いの強みを活かす機会をつくり、ネットワークで継続的に取り組んでいる。

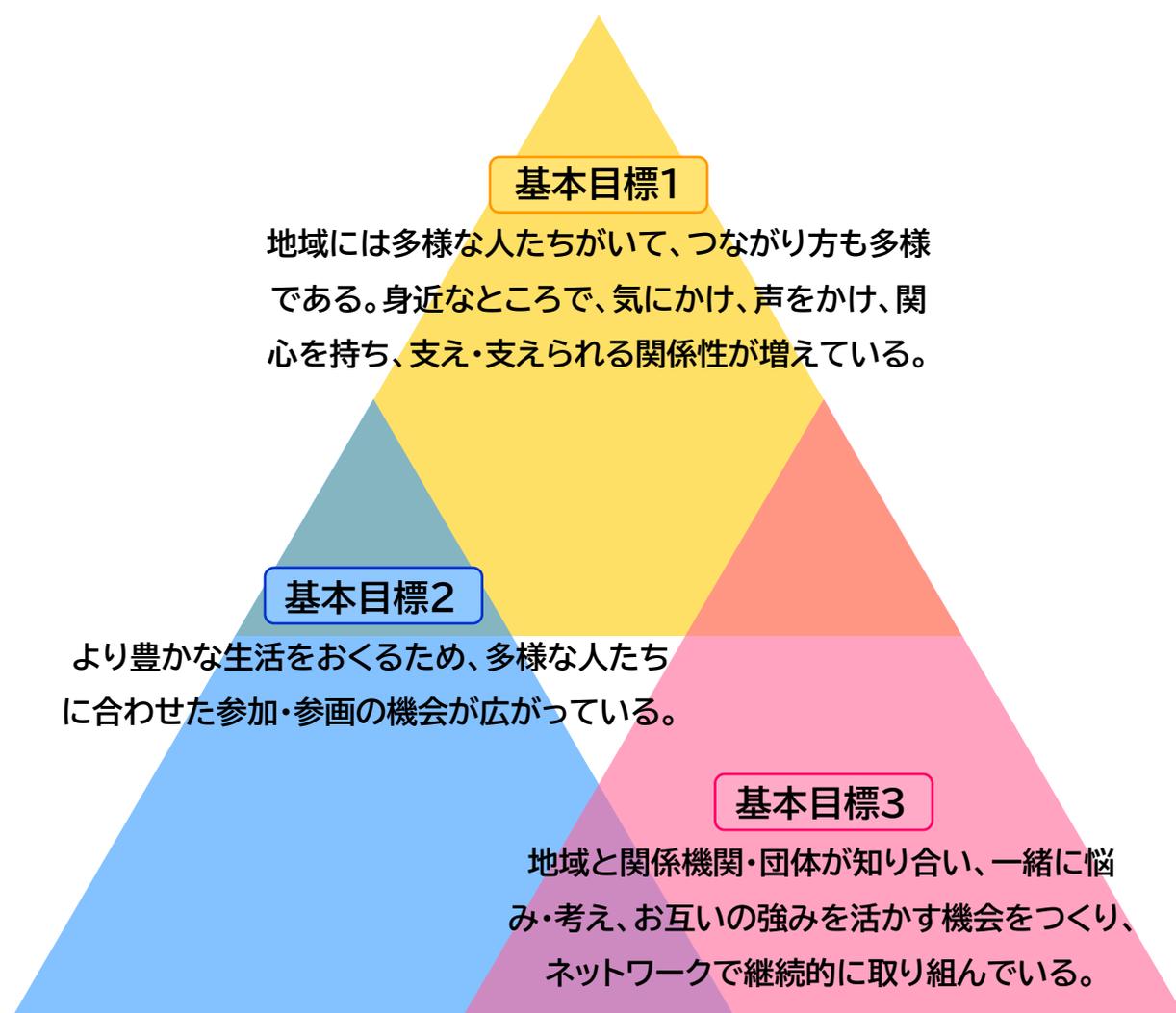
複合的な課題に対応するため、多様な主体が知り合い、それぞれの強みを活かしながら一緒に悩み・考えるプロセスを大切に、継続した関係性を築くことができるまち。地域と関係機関、団体が連携・協働することのできるネットワークを構築していくことを目指します。



2 基本目標の関係性

基本目標は、それぞれに独立しているわけではなく、また特定の順序で行われるものではなく、図のように重なり合い、相互に効果を発揮しながら基本理念の実現に結びついています。

基本目標1は身近な地域での活動の視点、基本目標2は参加・参画の視点、基本目標3は連携・協働の視点で取り組むことが示されています。





基本理念

知り合い、伝え・伝わり、心を寛げ、
つながりをもつことで「お互いさま」が生まれるまち

基本目標

1

地域には多様な人たちがいて、つながり方も多様である。身近なところで、気かけ、声をかけ、関心を持ち、支え・支えられる関係性が増えている。

2

より豊かな生活をおくるため、多様な人たちに合わせた参加・参画の機会が広がっている。

3

地域と関係機関・団体が知り合い、一緒に悩み・考え、お互いの強みを活かす機会をつくり、ネットワークで継続的に取り組んでいる。

主な取組

1-1

日常生活の中の、その人らしい居場所（喫茶店や居酒屋など）を大事にします。さりげなく気かけたり、声をかけたりするなど、意識的に関心を持ちます。

1-2

居場所づくりや地域活動などを通じて、多様な人と支え・支えられる関係を目指します。

2-1

楽しさや多様性のあるプログラム（音楽やアート、オンラインゲームなど）を増やして参加しやすい機会をつくります。

2-2

専門性や得意なことを活かして、地域活動への参加・参画を進め、課題に取り組んでいきます。

2-3

参加するために支援が必要な方を含めて、様々な方が参加できる機会や環境づくりに取り組みます。

3-1

地域住民・団体と専門職の境界線をなくし、お互いの活動を知り合う機会をつくります。

3-2

地域住民・団体と専門職が、解決したい課題を一緒に悩み、考える機会をつくります。

3-3

地域住民・団体と専門職が分野を超えて協働し、持続的なネットワークや活動をつくります。

活動主体ごとの取組

地域住民、地域で活動する人・団体は

地域住民、民生委員・児童委員、町会・自治会、高齢者クラブ、商店街、PTAなど

特定のテーマをもって活動する人・団体は

ボランティア・NPO団体、福祉関係団体、教育機関、企業など

専門職や公的機関は

社会福祉法人、福祉サービス事業所、高齢者あんしん相談センター、障害者基幹相談支援センター、地域生活支援拠点、医療機関、弁護士・司法書士などの専門職、行政・公的機関など

社会福祉協議会は

身近な地域で知り合った人を気にかけて、声をかけ、意識的に関心を持ちます。

活動を通じて、多様な人と支え・支えられる関係をつくります。

専門性を活かしつつ、地域住民の活動を多方面からさりげなくサポートします。

日常生活の動線上の人とネットワークをつくれます。
住民や活動団体、専門職の取組をサポートします。

自分自身も楽しみながら参加し、身近な人に参加を呼びかけます。得意なことや専門性を活かします。

楽しさや興味関心が湧くような活動の機会をつくります。本業や専門性を活かします。

参加するために支援が必要な方が、その人の強みを活かして活動に参加できるようサポートします。

幅広い対象や分野と連携して、核となる運営者を支えます。
住民や活動団体、専門職の取組をサポートします。

地域で活動する関係機関や団体の取組に関心を持ち、協力します。

地域で活動する関係機関や団体と知り合い、課題の解決に向けて、一緒に考えます。

地域の活動を知り、課題解決に向けて地域住民・団体と一緒に考えます。

多様な主体をコーディネートし、新たな課題解決の仕組みづくりを行います。
必要に応じて、政策提言も行います。

地域の生活課題の解決に向けて、関係機関や団体と連携・協働します。





4 基本目標の主な取組

基本目標 1

地域には多様な人たちがいて、つながり方も多様である。
身近なところで、気にかけて、声をかけ、関心を持ち、支え・支えられる関係性が増えている。

1-1

日常生活の中の、その人らしい居場所(喫茶店や居酒屋など)を大事にします。さりげなく気にかけてたり、声をかけたりするなど、意識的に関心を持ちます。

文京区では、核家族世帯や単身世帯が多くなっています。
特に高齢者は4人に1人が一人暮らしで、閉じこもりがちになっている方もいます。
誰かから押し付けられたものではない、自分らしい居場所を見つけたいと思います。



できたらいいなストーリー ~自分らしい居場所をつくろう~



【コウラクさん】

- ・数年前に妻を亡くして一人暮らしをしている男性
- ・自炊はせず、外食中心で友人はおらず、一人で食べて帰ってくる生活を送っている

【コイシカワさん】

- ・定食屋の店主で長年地域に暮らす情報通
- ・お客さんのことをさりげなく気にかけている

- ① いつもと変わらず、いろいろなお店で外食して帰ってくる生活です。
- ② 久しぶりに行った定食屋の店主に「久しぶりだね。どうしているのかと思っていたよ。」と声をかけられました。
- ③ 気にかけてくれたことがうれしかったコウラクさん。そこから少しずつ、お店に行って店主と話すことが楽しみになっていきました。
- ④ 地域活動に参加していなくても、緩やかなつながりの中で、お互いに気にかけてあうことのできる関係性が広がっていきました。

・今(やりたい・やっている)活動について
・エピソードなど

写真

思い

家や学校、職場以外に、あなたが自分らしくいられる場所は
どんなところですか？

1-2

居場所づくりや地域活動などを通じて、多様な人と支え・支えられる関係を目指します。

これまでの地域活動は、支える側と支えられる側に分けられることがありました。これからは、居場所や活動をとおして人と人が出会い、支える側にもなり、支えられる側にもなるという関係性をつくっていきましょう。



できたらいいなストーリー ～支え・支えられて～



【ハクサンさん】

- ・子育て世代、小学校低学年の子どもがいる
- ・夫婦でパン屋を経営していて忙しい

【センゴクさん】

- ・居場所を運営している

- ① センゴクさんが運営する居場所をもっといろいろな人に知ってほしい・参加してほしいと思い、お食事会を開催しました。
- ② そのお食事会に参加したハクサンさん。そこからセンゴクさんとよくお話をするようになります。すると、ハクサンさんは子どもの学習の遅れに悩んでいると話してくれました。
- ③ そこで、センゴクさんが同じ居場所でやっている学習支援を紹介し、ハクサンさんの子どもが定期的に参加するようになりました。
- ④ ある日、ハクサンさんから「居場所の周知に協力したい」と話があり、イベントの広報やパンづくり体験など居場所の運営に協力してくれるようになりました。

・今(やりたい・やっている)
活動について
・エピソード

写真

思い

あなたならどんな居場所づくりや地域活動をしたいですか？

基本目標 2

より豊かな生活をおくるため、多様な人たちに合わせた参加・参画の機会が広がっている。

2-1

楽しさや多様性のあるプログラム(音楽やアート、オンラインゲームなど)を増やして参加しやすい機会をつくります。

近年、文京区ではマンションが増えたり、外国籍の方も増加したりと住民が多様化しています。地域との関係が希薄になっており、地域との関わりがなく、どのように地域と関わればいいのか分からない人も多くなっています。

音楽やアート、ゲームなども人をつなぐキーワードになります。いろいろなプログラムをとおしてつながりましょう。



できたらいいなストーリー ～“楽しい”をきっかけに



※ ★…ストーリーの主演

【スイドウさん】★

・レコード店を経営、いろいろな人が参加できる楽しい音楽イベントを企画中

【ホンコマゴメさん】

・デザイン会社に勤めている30代

・新しいマンションに引っ越ししてきたばかりで、近隣とのつながりがない

【メジロダイさん】

・この地域で障害者支援に関わる専門職

- ① スイドウさんは、いろいろな人が楽しめて参加できるイベントとして、音楽をツールに集まれる音楽祭を地域で開催することにしました。
- ② そこには、ホンコマゴメさんとメジロダイさんも参加していて、知り合いになりました。
- ③ このイベントは、普段出会うことのできない多様な人たちがたくさん参加してくれて、大好評でした。
- ④ 音楽という共通点を通じて、新しい出会いやつながりも生まれました。

今(やりたい・やっている)活動について

写真

思い

あなたはどんなプログラムがあったら、参加したいですか？

地域の活動では、専門的な技術や知識がある人の関わりを求めています。専門性や得意なことを活かして地域と接点をもつことができる機会をつくりましょう。そしてそれを、地域の課題に取り組める活動にしていきましょう。



できたらいいストーリー ～“得意なこと”が地域活動に～



【スイドウさん】

・レコード店を経営、音楽をツールにいろいろな人が参加できるイベントを開催

【ホンコマゴメさん】★

・デザイン会社に勤めている30代

・新しいマンションに引っ越ししてきたばかりで、近隣とのつながりがない

【メジロダイさん】

・この地域で障害者支援に関わる専門職

- ① ホンコマゴメさんは、イベントに参加してみて、自分のようにマンションに住んでいる人が地域とつながりをつくれる機会が少ないと感じました。
- ② ホンコマゴメさんは、スイドウさんに相談しました。すると、スイドウさんも協力を表明してくれました。あわせて定休日にお店を貸してくれることになりました。そこから、月1回定期的にレコードで交流できるサロン「レコード日和」の活動がスタートしました。
- ③ ホンコマゴメさんは、デザインの勉強をしていたので、チラシの作成やSNSでの発信が得意です。サロンの広報担当を担うことになり、イベントで知り合ったメジロダイさんに声をかけました。
- ④ そこからメジロダイさんも度々サロンに参加してくれるようになり、他のマンションに住む人たちも参加してくれるようになりました。

今(やりたい・やっている)活動について

写真

思い

あなたの専門性や特技は、地域とどんな接点を持てそうですか？

地域の活動に参加する際に、支援が必要な方もいます。好きなことや得意なことで自己実現できる多様な機会を持つことができます。そしてやりがいや喜びをもって豊かに生活することができる環境をつくりましょう。



できたらいいなストーリー ～“好きなこと”で地域に参加する～



【スイドウさん】

- ・レコード店を経営
- ・音楽をツールにいろいろな人が参加できるイベントを開催し、ホンコマゴメさんのサロンに協力

【ホンコマゴメさん】

- ・デザイン会社に勤めている30代
- ・新しいマンションに引っ越ししてきたばかりで、近隣とのつながりがないと思い、音楽交流サロン「レコード日和」を月1回開催

【メジロダイさん】★

- ・この地域で障害者支援に関わる専門職

【センダギさん】★

- ・音楽好きでギターが得意、精神疾患を抱えていて体調に波がある
- ・メジロダイさんが支援者

- ① メジロダイさんは、センダギさんがこの「レコード日和」に合うのではないかと考えていました。
- ② そこで、ホンコマゴメさんに「支援が必要な方なのだけど、サロンに誘ってもいいか」と相談すると、「このサロンには、いろいろな人に参加してほしいと思っているから、ぜひ誘ってください」と言ってくれました。
- ③ メジロダイさんと一緒にセンダギさんもサロンに参加して、とても気に入ってくれました。次からはセンダギさんはメジロダイさんがいなくても体調が良いときにはサロンに来て楽しい時間を過ごしています。
ある日、センダギさんからギターが得意なことを聞いたホンコマゴメさんは、「サロンで披露してよ」とお願いしました。
- ④ そこから、センダギさんはサロンのメンバーとして度々ギターを披露しています。今後、サロンの参加者とバンドを組む計画もあるようです。

今(やりたい・やっている)
活動について

写真

思い

あなたにとって、豊かに暮らすとはどんなことですか？

基本目標 3

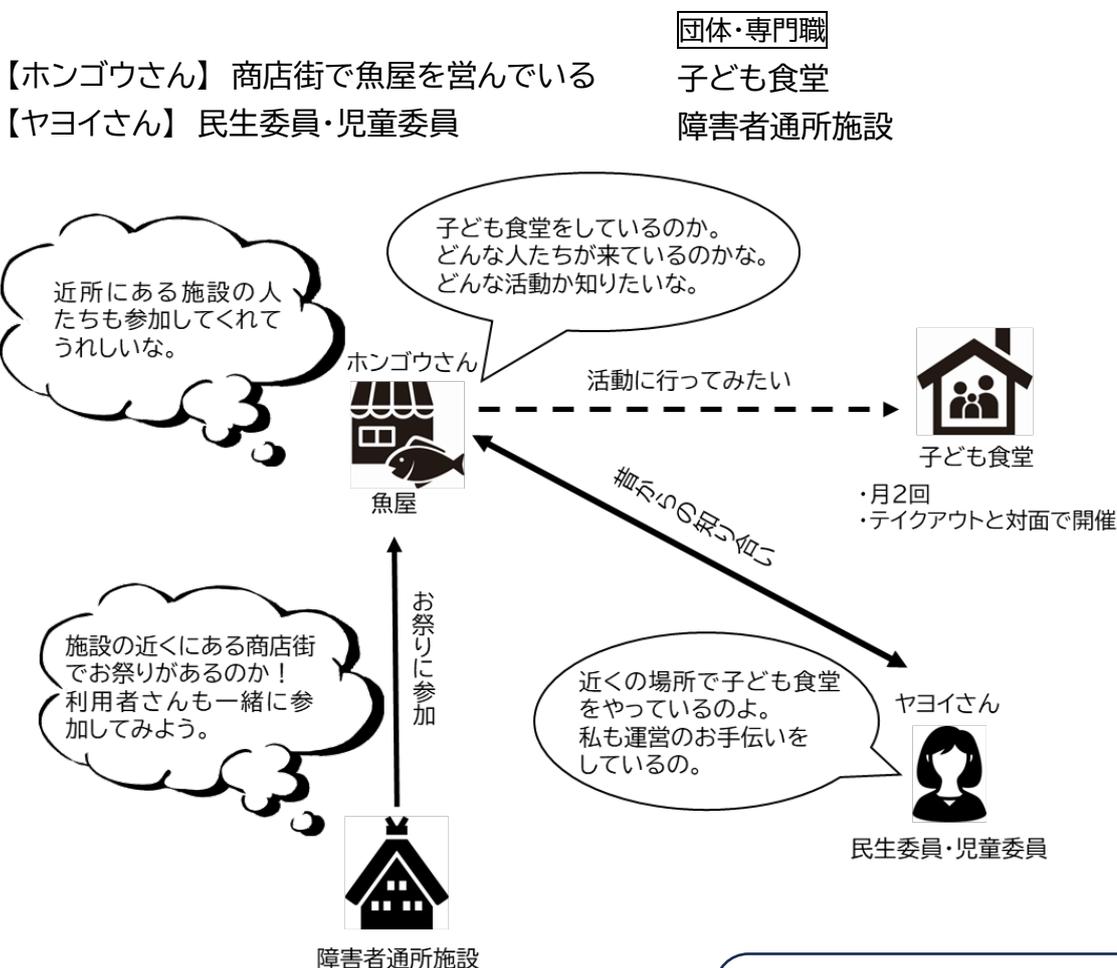
地域と関係機関・団体が知り合い、一緒に悩み・考え、お互いの強みを活かす機会をつくり、ネットワークで継続的に取り組んでいる。

3-1 地域住民・団体と専門職の境界線をなくし、お互いの活動を知り合う機会をつくります。

地域住民と団体、専門職が連携・協働をするためには、まずはお互いを理解し合い、知り合う機会が必要です。相手がどのような活動をしているのか、どのような思いを持っているのか、足を運んだり、ちょっと関心を持ったりして、意識し合しましょう。



できたらいいなストーリー ～知り合うきっかけはいろいろ～



今(やりたい・やっている)活動について



思い

あなたには関心がある専門職や活動は、ありますか？

3-2

地域住民・団体と専門職が、解決したい課題を一緒に悩み、考える機会をつくります。

課題を解決するためには、一緒に悩み・考えるプロセスが重要です。制度やサービスでは解決できない難しい課題もありますが、解決できないことを解決できたらいいなと思うことをきっかけに、声をかけ合い、お互いの強みを活かして考えられる機会をつくりましょう。



できたらいいなストーリー ～みんなで一緒に考える～



【ホンゴウさん】 商店街で魚屋を営む

【ヤヨイさん】 民生委員・児童委員 ホンゴウさんとは昔からの知り合い

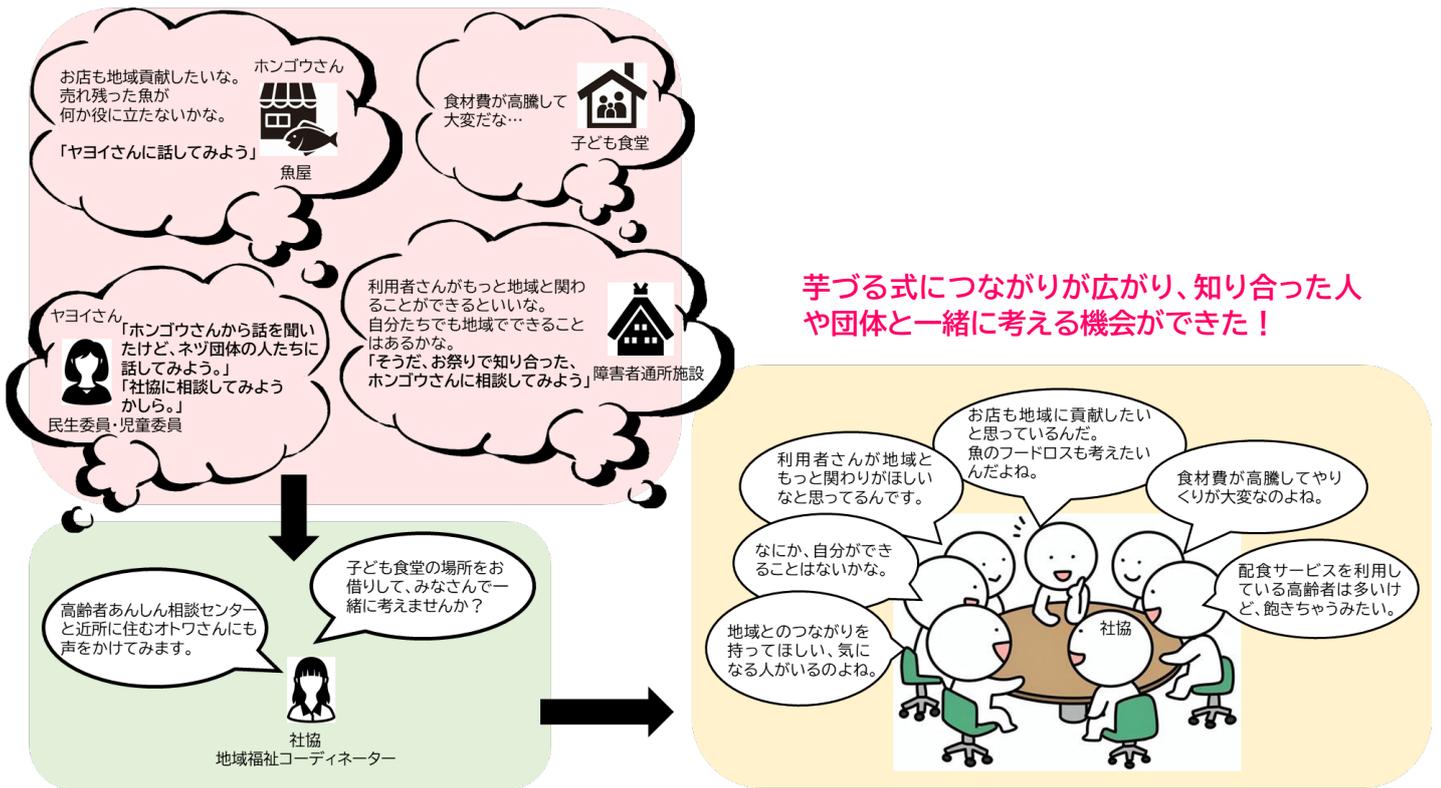
【オトワさん】 商店街に事務所を構える弁護士

団体・専門職

子ども食堂 ヤヨイさんも運営に関わっている

障害者通所施設 ホンゴウさんとはお祭りをとおして知り合った

高齢者あんしん相談センター



芋づる式につながりが広がり、知り合った人や団体と一緒に考える機会ができた！

今(やりたい・やっている)活動について

写真

思い

あなたには、だれかと一緒に考えたい課題はありますか？

地域住民・団体と専門職が分野を超えて協働し、持続的なネットワークや活動をつくりまします。

複合的な課題を解決するためには、分野を超えた連携・協働が必要です。それぞれの得意なことを活かして、継続的に取り組んでいけるネットワークをつくりましょう。



できたらいいなストーリー ~みんなで一緒に取り組もう~



- 【ホンゴウさん】商店街で魚屋を営む
- 【ヤヨイさん】民生委員・児童委員
- 【オトワさん】商店街に事務所を構える弁護士

- 団体・専門職**
- 子ども食堂
 - 障害者通所施設
 - 高齢者あんしん相談センター

フードロス対策で地域とのつながりづくりがしたい！



自分のところで、ロス食品を活用したお弁当が作れるかも。



魚屋さんだけではなく、商店街の他のお店も参画してほしいよね。



継続的に取り組んでいけるネットワークができた！

- ★商店街の他の店舗(肉屋・八百屋)も参画する
- ★ロス食品を使って子ども食堂が食事をつくる
→食事を障害者通所施設の利用者が配食サービスを利用する
高齢者に届ける**仕組み**ができる
- ★ファンドレイジング(寄付集め)で財源確保ができる仕組み



継続的に取り組むには、財源の確保が必要だよ。

子ども食堂までお弁当を取りに行くことができない高齢者もいるので届けてもらって助かります！

できたお弁当をうちの利用者さんが届けることができますよ。



今(やりたい・やっている)活動について

写真

思い

あなたには継続的に連携・協働をしていることはありますか？